

第 40 回 幹 事 会

平成 19 年 7 月 26 日

日 本 学 術 会 議

配布資料

資料 1 議事次第

資料 2 出席者一覧

資料 3 非公開審議事項

資料 4 第39回幹事会議事要旨

資料 5 諸報告事項

資料 6 審議事項

資料 9 「学術分野における男女共同参画の取組と課題」

参考 1 今後の予定

日 時 平成19年7月26日(木) 14:00~

議 題

非公開議事項

1 委員会関係

- ・ 国際委員会 AASSREC 等分科会の委員の候補者の決定(提案 1)
- ・ 分野別委員会における分科会、小委員会の設置及び委員の決定(提案2)
- ・ 地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題に関する検討委員会の設置(提案3)
- ・ 医療のイノベーション検討委員会の設置(提案4)
- ・ ヒト由来資料・情報を用いる研究に関する生命倫理検討委員会の設置期間の延長(提案5)
- ・ 研究評価の在り方検討委員会の設置期間の延長(提案6)

2 外部委員候補者の推薦

- ・ 外部委員候補者の推薦(提案 7)

3 その他

前回幹事会以降の諸報告

審議事項

1 対外報告

- ・ 「学術分野における男女共同参画の取組と課題」(提案 10)

2 規則等の改正

- ・ 国際委員会運営要綱の一部改正(提案 11)
- ・ 「会員候補者の推薦様式」及び「連携会員候補者の推薦様式」の決定(提案 12)
- ・ 日本学術会議後援名義の使用承認基準の一部改正(提案 13)

3 団体の指定

- ・ 日本学術会議協力学術研究団体の指定(提案 14)

4 国際会議関係

- ・ 平成 19 年度代表派遣の変更及び追加(提案 15、16)
- ・ 第 2 回ウブントウ RCE 審査委員会及び RCE 国際会議への会員の派遣(提案 17)
- ・ インターアカデミーパネル(IAP)執行委員会への会員の派遣(提案 18)
- ・ IAP 2007 International Workshop on Natural Disasters & Emergency Management への会員の派遣(提案 19)

5 シンポジウム等

- ・ シンポジウム「平成 19 年度女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～」(提案 20)
- ・ シンポジウム「ユーラシア東部とその隣接地域における陸域環境変動」(提案 21)
- ・ 日中韓ワークショップ「東アジアにおける現代の湖沼 流域系プロセスと人間活動」(提案 22)
- ・ 公開シンポジウム「学術・軍縮・人道」(提案 23)
- ・ 公開シンポジウム「微生物を知る」(提案 24)
- ・ 日本学術会議東北地区会議公開学術講演会(提案 25)
- ・ 公開シンポジウム「政治学は人間や社会にどう関わるのか」(提案 26)
- ・ 公開シンポジウム「研究・教育者等のキャリアパスの育成と課題」(提案 27)
- ・ シンポジウム「今後の政府統計のあり方とその有効活用」(提案 28)
- ・ 公開シンポジウム「子どもの環境保健 環境リスクから子どもを守る」(提案 29)
- ・ 公開シンポジウム「21世紀電子社会の法的課題 情報流通と情報保護」(提案 30)
- ・ 公開シンポジウム「農業農村における新たな資源・環境保全戦略と地域農業」 滋賀県における取り組みとその展開(提案 31)

6 後援

- ・ 国内会議(提案 32)

その他

第 4 0 回 幹 事 会 (7 月 2 6 日) 出 席 者 一 覧

会 長	金 澤 一 郎
副会長	浅 島 誠
副会長	鈴 村 興太郎
副会長	土 居 範 久

第一部 副部長	佐 藤 学
幹事	江 原 由美子
幹事	小 林 良 彰

第二部 部長	唐 木 英 明
副部長	北 島 政 樹
幹事	山 本 雅
幹事	鷲 谷 いづみ

第三部 部長	海 部 宣 男
副部長	小 林 敏 雄
幹事	大 垣 眞一郎

事務局	谷 口 局 長
-----	---------

諸 報 告 事 項

第 1 前回幹事会以降の経過報告

- | | |
|------------|------|
| 1 会長等出席行事 | P. 1 |
| 2 審議付託等 | P. 1 |
| 3 賞等の推薦 | P. 3 |
| 4 委員会委員の辞任 | P. 3 |

第 2 各部・各委員会等報告

- | | |
|--------------------|-------|
| 1 幹事会附置委員会の開催とその議題 | P. 3 |
| 2 部会の開催とその議題 | P. 3 |
| 3 機能別委員会の開催とその議題 | P. 4 |
| 4 分野別委員会の開催とその議題 | P. 4 |
| 5 課題別委員会の開催とその議題 | P. 11 |
| 6 人事 | P. 11 |

第 1 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
6月21日(木)	総合科学技術会議と日本学術会議の連絡懇談会(第8回) (旧称:総合科学技術会議と日本学術会議の連携強化の在り方に関する懇談会)	金澤会長、浅島副会長、土居副会長、谷口局長、須江次長、會田課長、村田参事官
7月6日(火)	〔表敬訪問・意見交換〕 Prof. John P. Campbell(IAC 事務局長)	金澤会長、唐木部長(第二部)、谷口局長、須江次長、村田参事官、
7月12日(木)	〔表敬訪問・意見交換〕 Lu Yongxiang(路 甬祥)会長(中国科学院院長)ほか19名	金澤会長、土居副会長、谷口局長、綱木次長、村田参事官
7月17日(火)	学術と政策に関する意見交換会(第4回)	金澤会長、鈴村副会長、土居副会長、唐木部長(第二部)、海部部長(第三部)、谷口局長、他
7月22日(日)	第12回新芳香族化学国際会議	浅島副会長

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審議・付託先
第9回日本感性工学会大会の後援について	日本感性工学会会長	第三部
平成19年度工学教育連合講演会の後援について	社団法人日本工学教育協会会長	第三部
河川環境復元に関する日本工学会と世界工学団体連盟の合同国際シンポジウムの後援について	社団法人日本工学会会長	第三部
「次世代スーパーコンピューティング・シンポジウム2007」の後援について	独立行政法人理化学研究所理事長	第三部
金沢大学重点研究国際シンポジウム「東アジア共生の歴史的基礎」の後援について	金沢大学経済学部教授	第一部
第61回日本臨床眼科学会 市民公開講座の後援について	第61回日本臨床眼科学会会長	第二部
シンポジウム「生殖科学のパラダイムシフト」の後援について	日本繁殖生物学会理事長	第二部 第三部

「第 18 回日本臨床スポーツ医学会学術集会」の後援について	第 18 回日本臨床スポーツ医学会学術集会	第二部
メタロミクス国際シンポジウム 2007 (ISM2007) の後援について	社団法人日本化学会会長	第三部
平成 19 年度衝撃波シンポジウムの後援について	衝撃波研究会会長、平成 19 年度衝撃波シンポジウム実行委員会委員長	第三部
日本学術会議協力学術研究団体の指定について	日本学校健康相談学会 フラーレン・ナノチューブ学会 放電学会 バレーボール学会 日本質的心理学会 日本ファイナンス学会 日本観光ホスピタリティ教育学会 日本トランスパーソナル学会 人間・植物関係学会 日本体操学会 生物科学学会連合 日本ヤスパース協会 日本ジェネリック医薬品学会 中国経営管理学会 電子スピンスイエンズ学会 日本学習社会学会 日本子ども健康科学会（子どもの心・体と環境を考える会） 日本環境管理学会 日英教育学会 台湾史研究会 北海道畜産学会 古代アメリカ学会 日本リハビリテーション連携科学学会	科学者委員会

	日本 VR 医学会 地域研究学会連絡協議会 共生社会システム学会 (財)林業経済研究所 多文化関係学会	
大阪大学サイバーメディアセンター運営委員会委員候補者の推薦について	国立大学法人大阪大学サイバーメディアセンター長	情報学委員会 委員長

3 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
Millennium Technology 賞	各部	見送り
第 24 回（2008）京都賞 基礎科学部門候補者の推薦について	各部	照会中

4 委員会委員の辞任

・健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会委員

南 裕子 （平成 19 年 6 月 29 日付け）

・化学委員会 I U C r 分科会

岩澤 康裕 （平成 19 年 6 月 26 日付け）

小林 昭子 （平成 19 年 6 月 26 日付け）

壽榮松 宏仁 （平成 19 年 6 月 26 日付け）

田中 勲 （平成 19 年 6 月 26 日付け）

中西 八郎 （平成 19 年 6 月 26 日付け）

日比谷 孟俊（平成 19 年 6 月 26 日付け）

山縣 ゆり子（平成 19 年 6 月 26 日付け）

・総合工学委員会エネルギーと科学技術分科会

秋山 守 （平成 19 年 6 月 25 日付け）

・総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会事故調査体制の在り方小委員会

廣瀬 久和 （平成 19 年 6 月 25 日付け）

第 2. 各部・各委員会報告

1 幹事会附置委員会の開催とその議題

（ 1 ）憲章起草委員会（第 5 回）（6 月 27 日）

素案の検討 その他

（ 2 ）憲章起草委員会（第 6 回）（7 月 26 日）

素案の検討 その他

2 部会の開催とその議題

（ 1 ）第一部 拡大役員会（第 9 回）（6 月 21 日）

各分野別委員会における活動について 「対外報告」のレビューの体制について 課題別委員会の設置について 冬季部会について その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) **選考委員会** (第18回) (7月2日)

会員候補者推薦書等及び連携会員候補者推薦書等について

(2) **科学者委員会** (第27回) (7月9日)

日本学術会議学術協力団体の指定 地区会議の活動 男女共同参画分科会の
中間報告 その他

(3) **科学と社会委員会 科学力増進分科会** (第12回) (7月10日)

科学技術リテラシー小委員会の活動報告 サイエンスカフェについて
サイエンスアゴラの企画案について 対外報告について キッズ
アカデミーへの対応について その他

(4) **科学者委員会広報分科会** (第19回) (7月19日)

前回(5月24日)の議事要旨 今後の編集方針 日本学術会議パンフレットに
ついて 日本学術会議HP掲載の「日本学術会議おもしろ情報館」のコーナー
「科学者を志した理由のリニューアル」 その他(今後の会議日程の確認等)

(4) **科学者委員会 学術体制分科会** (第7回) (7月26日)

公開講演会について その他

(5) **G8学術会議分科会** (第4回) (7月17日)

G8学術会議について

(6) **国際委員会** (第17回) (7月19日)

第7回アジア学術会議について 持続可能な社会のための科学と技術に関す
る国際会議について 第17回アジア社会科学研究協議会連盟隔年総会について
その他

(7) **持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2007 分科会**

(第20期・第6回 平成19年7月20日)

プログラムの検討 Program&Abstractsについて 広報活動等について 「学
術の動向」への掲載について その他

(7) **AASSREC 等分科会** (第20期・第11回 平成19年7月2日)

第17回AASSREC総会(2007年9月27日～9月30日、名古屋)の開催について その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) **政治学委員会** (第7回) (6月21日)

9月22日開催予定 政治学委員会 公開シンポジウムの詳細決定

10月6日開催予定 日本政治学会での政治学委員会分科会セッションの
詳細決定 その他

(2) 経済学委員会 政府統計・社会統計情報基盤整備分科会

(第 2 回)(6 月 2 1 日)

オブザーバーの追加の件

改正統計法の成立・公布を踏まえた今後の活動について

- 1) 基本計画作成に向けて 2) 市場化テストの動きに対する対応
- 3) シンポジウムの開催について

(3) 史学委員会 IUHPS 分科会 (第 3 回)(6 月 2 2 日)

諸報告事項：特任連携会員の「再任」

事後承諾の件：科学基礎論国際会議代表交代と特任連携会員

「科学史」分科会設置

国際会議関係 1) 次回国際会議開催に関する対応

2) 「若い研究者」賞候補者の推薦

史料保存について 当面の課題に対する取り組み その他

(4) 地域研究委員会 国際地域開発研究分科会 (第 3 回)(6 月 2 3 日)

途上国開発のための国際協力のあり方について

1) 開発戦略と国際協力について

- ・絵所秀紀 「開発戦略と制度構築支援」
- ・大塚 啓二郎 「アフリカにおける緑の革命の可能性」
- ・山形辰史 (アジア経済研究所) 「雇用創出を通じた貧困削減」

2) キャパシティ・ビルディングと国際協力について

- ・桑島京子 (J I C A) 「人間の安全保障と社会開発」
- ・武内進一 「家産制国家と泰アフリカ援助」
- ・古川勇二 「ものづくりのための多国間国際協力：IMS プログラムを事例に」

その他

(5) 社会学委員会 社会福祉学分科会 (第 5 回)(6 月 2 5 日)

報告書の原案枠組みの検討 その他

(6) 地域研究委員会 (第 8 回)(6 月 2 8 日)

各分科会の活動状況について 地域教育について その他

(7) 地域研究委員会 地域基盤整備分科会 (第 4 回)(6 月 2 8 日)

アンケートの結果について 提言について その他

(8) 法学委員会 「IALS・国際学术交流」分科会 (第 5 回)(6 月 2 9 日)

アンケートについて 今後の「IALS・国際学术交流」分科会の活動について その他

(9) 心理学・教育学委員会 心と体から教育を考える分科会

(第 1 回)(6 月 3 0 日)

委員長、副委員長、幹事の選出 今後の委員会活動について その他

(10) 心理学・教育学委員会 心理学教育プログラム検討分科会

(第5回)(7月1日)

心理学カリキュラム(案)の審議 心理学のキャリア・パスと資格教育のあり方について その他

(11) 法学委員会 「不平等・格差社会とセーフティ・ネット」分科会

(第4回)(7月6日)

「格差＝貧困・不平等とセーフティ・ネット－社会保障法学の立場から」
その他

(12) 社会学委員会 少子高齢社会分科会(第4回)(7月7日)

第2回シンポジウムの開催時期と内容について 第3回シンポジウム以降の活動予定について その他

(13) 地域研究委員会 地域情報分科会(第7回)(7月9日)

人間文化研究機構 安永尚志・客員教授からの話題提供

「人間文化研究機構における研究情報資源共有化事業について」 その他

(14) 法学委員会 ファミリー・バイオレンス分科会(第4回)(7月13日)

委員からの報告 水野委員より「フランスの児童保護システム」についての報告 今後の活動予定 その他

(15) 政治学委員会(第8回)(7月17日)

日本学術会議 政治学委員会主催 公開シンポジウム開催案の決定 その他

(16) 言語・文学委員会(第9回)(7月21日)

本日のシンポジウムについて その他

(17) 言語・文学委員会 古典文化と言語分科会(第5回)(7月21日)

中国の古典 その他

(18) 心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同

高校地理歴史科教育に関する分科会(第3回)(7月22日)

高校における歴史教育の現状と問題点 大学における歴史・地理教育の現状と問題点 今後の提言とりまとめの進め方 その他

第二部担当

(1) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・生産農学委員会・基礎医学委員会・

臨床医学委員会・薬学委員会合同 実験動物分科会(第3回)(6月25日)

八神幹事、小幡委員からの報告 その他

(2) 農学基礎委員会 農業情報システム学分科会(第5回)(6月26日)

公開シンポジウム「新グローバル化のなかの農業知財：SCM/DCMの文脈化」について 公開シンポジウム「東アジア地域の食の安全確保の現状と情報技術の応用」について 対外報告、ヒアリングなど今後の活動について その他

(3) **健康・生活科学委員会 看護学分科会** (第 5 回)(6 月 2 8 日)

班毎の経過報告

緊急課題の重点的討議 1) 課題と現在の論点の整理 2) 看護学からみて
状況の改善のために現時点で提言できることはあるか その他

(4) **健康・生活科学委員会** (第 7 回)(6 月 2 8 日)

健康・生活科学委員会の各分科会の活動報告と今後の方針

(パブリックヘルス科学、健康・スポーツ科学、看護学、生活科学、
子どもの健康、高齢者の健康、脱タバコ社会の実現、生活習慣病対策)

健康・生活科学委員会の今後の活動について

1) 「学術の動向」特集企画について 2) その他

その他

(5) **臨床医学委員会 老化分科会** (第 1 回)(6 月 2 8 日)

委員長、副委員長、幹事の選出について 今後の活動について その他

(6) **健康・生活科学委員会 生活科学分科会** (第 6 回)(6 月 2 9 日)

3 月 1 4 日開催のシンポジウムの報告 「学術の動向」生活科学小特集
に関する報告 生活科学系コンソーシアムの立ち上げ準備について

平成 1 9 年度の生活科学分科会活動計画について その他

(7) **健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会** (第 3 回)(6 月 2 9 日)

シンポジウムについて その他

(8) **健康・生活科学委員会 子どもの健康分科会** (第 7 回)(7 月 2 日)

「子どもの健康」の現状と課題について 今後の進め方とスケジュール
について その他

(9) **臨床医学委員会 免疫・感染症分科会** (第 3 回)(7 月 2 日)

今後の活動について その他

(10) **臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 パブリックヘルス科学分科会**

(第 4 回)(7 月 4 日)

「個人情報保護法下での研究の諸問題と今後の政府統計活用のあり方」

1) 平成 1 8 年度 3 月開催シンポジウム報告ならびに「分科会報告書」作成の
方向性について

2) 愛媛「日本公衆衛生学会」(1 0 月) 時フォーラム (予定) について
平成 1 9 年度活動予定

1) アジア諸国との公衆衛生活動協力の推進について

2) 公衆衛生教育、特に専門大学院問題、その課題について

3) 健康食品問題について

4) パブリックヘルス科学に関係する学協会の連携組織化について

5) その他

次回以降の分科会の計画

- (11) **生産農学委員会 農学教育分科会** (第6回)(7月5日)
農学と農学教育の在り方の取りまとめについて その他
- (12) **健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会** (第6回)(7月9日)
報告事項
協議事項
1) 健康・スポーツ科学分野学術研究団体との連携について
2) 幼児から発育期の子どもの身体運動・スポーツガイドラインの作成に
向けて - 当該分野における学術的成果の蓄積について - (継続)
委員の分担について その他
- (13) **健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会**
(第9回)(7月10日)
日本学術会議主催 公開講演会「脱タバコ社会の実現のために - エビデンスに
基づく対策の提言 - 」について その他
- (14) **生産農学委員会 人と動物の関係分科会** (第6回)(7月11日)
乗馬療法の現状と未来について 増えすぎた野生動物の活用について
シンポジウムの開催について シンポジウムの開催について その他
- (15) **健康・生活科学委員会 生活科学分科会** (第7回)(7月18日)
生活科学系コンソーシアム(仮称)の創立に関する件 その他
- (16) **農学基礎委員会 農業経済学分科会** (第5回)(7月18日)
農業経済学分野の業績評価について 東アジア経済連携の在り方に関する
検討について その他
- (17) **農学基礎委員会 食の安全分科会** (第4回)(7月18日)
ハザード種別にみたりスクアセスメントとリスクマネジメントの特徴に
ついて レギュラトリーサイエンスの在り方の検討について
トキシコロジー分科会との合同シンポジウムについて その他
- (18) **臨床医学委員会 脳とこころ分科会** (第2回)(7月18日)
幹事(2名以内)の選出 連携シンポジウムについて
「これからの重点研究課題」アンケートのまとめ その他
- (19) **農学基礎委員会・生産農学委員会合同 C I G R分科会**
(第8回)(7月20日)
Glasgow でのC I G R理事会等の報告について 2011年の国際
シンポジウムに関する報告について 今後の対応について その他
- (20) **健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会**
(第10回)(7月23日)
日本学術会議主催公開講演会「脱タバコ社会の実現のために
- エビデンスに基づく対策の提言 - 」について その他

- (21) 歯学委員会 病態系歯学分科会 (第4回)(7月24日)
委員参加分科会の活動状況についての報告 シンポジウムについて
今後の方針について その他
- (22) 基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 医学教育分科会
(第4回)(7月25日)
今後の活動について その他
- (23) 生産農学委員会 畜産学分科会 (第5回)(7月25日)
今後の畜産学分科会の活動について その他

第三部担当

- (1) 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会 (第2回)(6月22日)
経過報告 各WGの取り組みに関する討論 その他
- (2) 地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会 (第4回)(6月23日)
この間の活動について 今後の活動について その他
- (3) 環境学委員会 環境思想・環境教育分科会 (第2回)(6月25日)
今期運営方針について 「環境思想からみる環境教育」シンポジウム
について その他
- (4) 化学委員会 IUCr分科会 (第3回)(6月26日)
両分科会の役割分担 委員の再編 その他
- (5) 化学委員会・物理学委員会合同 結晶学分科会 (第2回)(6月26日)
両分科会の役割分担 委員の再編 その他
- (6) 総合工学委員会 エネルギーと人間社会に関する分科会
(第2回)(6月27日)
委員からの話題提供 その他
- (7) 環境学委員会 (第7回)(6月28日)
環境学シンポジウム報告 各分科会活動報告 課題別委員会提案
新規分科会設置提案
- (8) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・
リスク検討分科会 (第2回)(6月29日)
小委員会、WG活動報告 安全工学シンポジウムについて
委員からの話題提供 その他
- (9) 地球惑星科学委員会 INQUA分科会 (第1回)(7月2日)
役員の選出について 分科会設立の経緯について 関連する各分科会の
活動について その他
- (10) 地球惑星科学委員会 社会貢献分科会 (第2回)(7月3日)
前会議以降の学術会議などの動向について 分科会の活動方針について
その他

- (11) 環境学委員会・数理科学委員会・物理学委員会・地球惑星科学委員会・
情報学委員会・化学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・電気電子
工学委員会・土木工学・建築学委員会・材料工学委員会合同
若手・人材育成問題検討分科会(第2回)(7月5日)
話題提供 夏季部会での課題と審議方法について その他
- (12) 情報学委員会 ユビキタス空間情報基盤社会分科会(第3回)(7月6日)
分科会の今年度の活動方針 提言に向けての一般的課題設定
位置や場所、識別に関する国際標準の動向 今後の進め方 その他
- (13) 総合工学委員会 巨大複雑系経済システムの創成力を考える分科会
(第3回)(7月6日)
巨大複雑系社会経済システムの特性比較テーブルの報告 報告に対する
審議 出口の視点に対する審議 今後の作業工程計画の確認 その他
- (14) 機械工学委員会 生産科学分科会(第4回)(7月6日)
シンポジウムの概要のウェブアップと生産科学学術で検討すべき課題
- (15) 化学委員会 分析化学分科会(第4回)(7月11日)
今後の活動方針について シンポジウム「イノベーションをよぶ
分析技術」について その他
- (16) 環境学委員会 自然環境保全再生分科会(第6回)(7月13日)
対外報告について その他
- (17) 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会(第8回)(7月19日)
当分科会をめぐる情勢と分科会の活動方針について
テーマ別ワーキングの設置について その他
- (18) 土木工学・建築学委員会 拡大役員会(第10回)(7月20日)
各分科会活動報告 全体会議について 年次報告書について
分科会等の設置について その他
- (19) 土木工学・建築学委員会 国土と環境分科会(第5回)(7月23日)
各小委員会報告 話題提供 今後の方向性の議論 その他
- (20) 物理学委員会 IAU分科会(第6回)(7月23日)
天文学・宇宙物理学長期計画の今後の進め方 諸報告 若手・人材
育成について 理数系教育について 世界天文年について
AURAについて その他
- (21) 物理学委員会 天文学・宇宙物理学分科会(第4回)(7月23日)
天文学・宇宙物理学長期計画の今後の進め方 諸報告 若手・人材
育成について 理数系教育について 世界天文年について
AURAについて その他

(22) 地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 (第2回)(7月24日)

IUGS 報告 新小委員会の活動報告 IYPE 活動進捗報告 その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 生殖補助医療の在り方検討委員会 (第6回)(6月22日)

生物学から見た生殖補助医療の課題 生殖補助医療に対する日本産科
婦人科学会の対応と変遷及び医学的見地からみた代理懐胎の問題点 その他

(2) 生殖補助医療の在り方検討委員会 (第7回)(7月23日)

生殖補助医療についての現状と課題

1) 医の倫理の立場から (徳島大学学長 青野 敏博 氏)

2) 女性 (ジェンダー) の視点から

(首都大学東京都市教養学部教授 江原 由美子 氏)

3) 宗教的側面から (東京大学大学院人文社会系研究科教授 島蘭 進 氏)

4) 産まれてくる子どもの立場から

(国立成育医療センター名誉総長 松尾 宣武 氏)

その他

2 専門調査会

* 第66回 評価専門調査会

7月5日

(1) 大規模研究開発の事前評価フォローアップについて

3 総合科学技術会議有識者委員会合

- ・ 6月28日 * 会長出席
- ・ 7月 5日 * 会長出席
- ・ 7月12日 * 会長出席
- ・ 7月19日
- ・ 7月26日 * 会長出席

6 人 事

事 務 局

事務次長 旧：須江 雅彦 (平成 19 年 7 月 10 日付)

新：綱木 雅敏 (")

企画課長 旧：會田 雅人 (平成 19 年 7 月 10 日付)

新：中田 昌和 (")

参事官(国際業務担当)付企画官 木方 幸久 (平成 19 年 7 月 6 日付)

審 議 事 項

(対外報告)

提案 10 「学術分野における男女共同参画の取組と課題」 P . 1

(規則等の改正)

提案 11 国際委員会運営要綱の一部改正 P . 2

提案 12 「会員候補者の推薦様式」及び「連携会員候補者の推薦様式」の決定 P . 5

提案 13 日本学術会議後援名義の使用承認基準の一部改正 P . 10

(団体の指定)

提案 14 日本学術会議協力学術研究団体の指定 P . 12

(国際会議関係)

提案 15、16 平成 19 年度代表派遣の変更及び追加 P . 13

提案 17 第2回ウブントゥRCE 審査委員会及びRCE 国際会議への会員の派遣 P . 17

提案 18 インターアカデミーパネル(IAP)執行委員会への会員の派遣 P . 20

提案 19 IAP 2007 International Workshop on Natural Disasters & Emergency Management への会員の派遣 P . 21

(シンポジウム等)

提案 20 シンポジウム「平成 19 年度女子高校生夏の学校～科学・技術者の
たまごたちへ～」 P . 23

提案 21 シンポジウム「ユーラシア東部とその隣接地域における陸域環境変動」 P . 25

提案 22 日中韓ワークショップ「東アジアにおける現代の湖沼 流域系プロセス
と人間活動」 P . 27

提案 23 公開シンポジウム「学術・軍縮・人道」 P . 29

提案 24 公開シンポジウム「微生物を知る」 P . 30

提案 25 日本学術会議東北地区会議科学者との懇談会及び公開学術講演会 P . 32

提案 26 公開シンポジウム「政治学は人間や社会にどう関わるのか」 P . 33

提案 27 公開シンポジウム「研究・教育者等のキャリアパスの育成と課題」 P . 35

提案 28 シンポジウム「今後の政府統計のあり方とその有効活用」 P . 36

提案 29 公開シンポジウム「子どもの環境保健 環境リスクから子どもを守る」 P . 38

提案 30 公開シンポジウム「21 世紀電子社会の法的課題 情報流通と情報保護」 P . 40

提案 31 公開シンポジウム「農業農村における新たな資源・環境保全戦略と地域
農業」 - 滋賀県における取り組みとその展開 P . 41

(後援)

提案 32 国内会議の後援 P . 43

1 0	
幹事会	4 0

提 案

対外報告

「学術分野における男女共同参画の取組と課題」

1. 提 案 者 科学者委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提 案 理 由 本委員会男女共同参画分科会のこれまでの審議結果を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため

記

日本学術会議会則第二条第三号の「対外報告」として取り扱うこと。

1 1	
幹事会	40

提 案

国際委員会運営要綱の一部改正

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 国際委員会日本・モンゴル学术交流分科会及びアジア学術会議分科会第 6 回 SCA 会合担当小分科会は、用務終了につき別表 1 及び別表 2 から削除することとしたい。

記

国際委員会運営要綱の改正については、別添を参照

国際委員会運営要綱（平成 17 年 10 月 4 日日本学術会議第 1 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

次の表のように改める。

改正後				改正前			
別表 1				別表 1			
分 科 会	調査審議事項	構 成	備 考	分 科 会	調査審議事項	構 成	備 考
(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	
日本・カナダ女性研究者交流分科会	日本・カナダ女性研究者交流事業の実施に関すること	副会長（日本学術会議会則第 5 条第 3 号担当）及び委員長が必要と認める会員又は連携会員若干名		日本・カナダ女性研究者交流分科会	日本・カナダ女性研究者交流事業の実施に関すること	副会長（日本学術会議会則第 5 条第 3 号担当）及び委員長が必要と認める会員又は連携会員若干名	
(削除)				日本・モンゴル学術交流分科会	日本学術会議とモンゴル学術機関との二国間学術交流の実施に関すること	会長及び副会長（日本学術会議会則第 5 条第 3 号担当）並びに委員長が必要と認める会員又は連携会員若干名	
日米学術交流分科会	日本学術会議と米国学術機関との二国間学術交流の実施に関すること	副会長（日本学術会議会則第 5 条第 3 号担当）及び委員長が必要と認める会員又は連携会員若干名		日米学術交流分科会	日本学術会議と米国学術機関との二国間学術交流の実施に関すること	副会長（日本学術会議会則第 5 条第 3 号担当）及び委員長が必要と認める会員又は連携会員若干名	

改正後				改正前			
別表 2				別表 2			
小 分 科 会	調査審議事項	構 成	備 考	小 分 科 会	調査審議事項	構 成	備 考
(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	
ウブントゥ連合小分科会	ウブントゥ連合の活動の支援	アジア学術会議分科会委員 1 名並びにアジア学術会議分科会委員長が必要と認める会員又は連携会員	アジア学術会議分科会に置く。	ウブントゥ連合小分科会	ウブントゥ連合の活動の支援	アジア学術会議分科会委員 1 名並びにアジア学術会議分科会委員長が必要と認める会員又は連携会員	アジア学術会議分科会に置く。
(削除)				第 6 回 S C A 会合担当小分科会	第 6 回 S C A 会合の内容の検討、開催国の支援	アジア学術会議分科会委員 1 名並びにアジア学術会議分科会委員長が必要と認める会員又は連携会員	アジア学術会議分科会に置く。
第 7 回 S C A 会合担当小分科会	第 7 回 S C A 会合の内容の検討、会議計画の策定	アジア学術会議分科会委員 1 名並びにアジア学術会議分科会委員長が必要と認める会員又は連携会員	アジア学術会議分科会に置く。	第 7 回 S C A 会合担当小分科会	第 7 回 S C A 会合の内容の検討、会議計画の策定	アジア学術会議分科会委員 1 名並びにアジア学術会議分科会委員長が必要と認める会員又は連携会員	アジア学術会議分科会に置く。

1 2	
幹事会	4 0

提 案

「会員候補者の推薦様式」及び「連携会員候補者の推薦様式」の決定

- 1 提 案 者 選考委員会委員長
- 2 議 案 標記について、別紙（案）のとおり決定すること。
- 3 提案理由 日本学術会議の運営に関する内規第 6 条第 1 項の規定に基づき、会員候補者及び連携会員候補者の推薦を行う様式を決定する必要があるため。

会員候補者用

注意事項

- ・様式は、Windows版Microsoft Excel によって作成されています。
- ・候補者1人につき、この推薦書1枚を作成してください。したがって2人の候補者を推薦する場合、2枚の推薦書が必要になります。また、ファイルも2つに分けて提出してください。
- ・推薦者の主要な専門分野以外の分野や女性、若手、地域などの属性に配慮してください。

< 様 式 1

日本学術会議会員候補者推薦書(案)

平成 年 月 日

日本学術会議 選考委員会 御中

日本学術会議会員の候補者にふさわしい者として、次の者を推薦いたします。

【候補者について】

氏名(ふりがな)	
氏名(戸籍名)	
(通称(旧姓など))	
生年月日(西暦)	
現職	
候補者が所属するのに適切 と考える分野別委員会	
日本学術会議の現職(会員・連携会員)	
会員就任の同意(有・無)	
連携会員就任の同意(有・無)	

推薦理由(500字以内)

--	--

【推薦者氏名・連絡先】

氏名(漢字)	
署名(印刷したもののみ)	
会員・連携会員の別	
電話番号	
Email Address	

【賛同者】

氏名(漢字)	
会員・連携会員の別	

会員候補者カード

D1	氏名	(ふりがな)						
D2		(漢字)						
D3	性別 (男・女)							
D4	生年月日(西暦)							
D5	住所	(郵便番号)						
D6		(住所)						
D7		(電話番号)						
D8		(FAX番号)						
D9		(Email Address)						
D10	勤務機関	(勤務機関名)						
D11		(職名)						
D12		(郵便番号)						
D13		(住所)						
D14		(電話番号)						
D15		(FAX番号)						
D16		(Email Address)						
D17	最終学歴	(学校等名)						
D18		(卒業等の別)						
D19		(卒業等年月(西暦))						
D25	専門分野	科研費の細目から選択	1	細目名		細目番号		
D26			2	細目名		細目番号		
D27			3	細目名		細目番号		
D28		自由記入						
D22	国内所属学会 (3つ以内) (学会名)							
D23	国際所属学会 (3つ以内) (学会名)							
D24	研究論文、著書、特許等の学術的業績 (主要なもの5つ以内) (第一著者、表題等、掲載誌・巻号 頁、発行機関、発行年) (最新のものから記載する)							
D21	主要な受賞歴 (3つ以内) (受賞年(西暦)及び賞名)							

連携会員候補者用

注意事項

- ・様式は、Windows版Microsoft Excel によって作成されています。
- ・候補者1人につき、この推薦書1枚を作成してください。したがって2人の候補者を推薦する場合、2枚の推薦書が必要になります。
- ・推薦者の主要な専門分野以外の分野や女性、若手、地域などの属性に配慮してください。

< 様式 1

日本学術会議連携会員候補者推薦書(案)

平成 年 月 日

日本学術会議 選考委員会 御中

日本学術会議連携会員の候補者にふさわしい者として、次の者を推薦いたします。

【候補者について】

(ふりがな)	
氏名(戸籍名)	
(通称(旧姓など))	
生年月日(西暦)	
現職	
専門としている科学の部門(複数記入可)	1
	2
	3
日本学術会議の現職(会員・連携会員)	
連携会員就任の同意(有・無)	

推薦理由(500字以内)

--

【推薦者氏名・連絡先】

氏名(漢字)	
署名(印刷したもののみ)	
会員・連携会員の別	
電話番号	
Email Address	

【賛同者】

氏名(漢字)	
会員・連携会員の別	

連携会員候補者カード

D1	氏名	(ふりがな)						
D2		(漢字)						
D3	性別(男・女)							
D4	生年月日(西暦)							
D5	住所	(郵便番号)						
D6		(住所)						
D7		(電話番号)						
D8		(FAX番号)						
D9		(Email Address)						
D10	勤務機関	(勤務機関名)						
D11		(職名)						
D12		(郵便番号)						
D13		(住所)						
D14		(電話番号)						
D15		(FAX番号)						
D16		(Email Address)						
D17	最終学歴	(学校等名)						
D18		(卒業等の別)						
D19		(卒業等年月(西暦))						
D25	専門分野	科研費の細目から 選択	1	細目名		細目番号		
D26			2	細目名		細目番号		
D27			3	細目名		細目番号		
D28		自由記入						
D22	国内所属学会(3つ以内) (学会名)							
D23	国際所属学会(3つ以内) (学会名)							
D24	研究論文、著書、特許等の学術的 業績(主要なもの5つ以内) (第一著者、表題等、掲載誌・巻号 頁、発行機関、発行年) (最新のものから記載する)							
D21	主要な受賞歴(3つ以内) (受賞年(西暦)及び賞名)							

1 3	
幹事会	4 0

提 案

日本学術会議後援名義の使用承認基準の一部改正

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 標記について、別紙案のとおり決定すること
- 3 提案理由 国外において開催されるシンポジウム、講演会、研究会等についても後援名義の使用の承認をするため

日本学術会議後援名義の使用承認基準

日本学術会議は、下記により国内において開催される学術に関するシンポジウム、講演会、研究会等（以下「会議」という。）について、後援名義の使用を承認することができる。ただし、国際会議については、別に定めるところによる。

(案)

日本学術会議後援名義の使用承認基準（平成17年10月27日日本学術会議第4回幹事会決定）の一部を次のように改正する。
次表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後	改 正 前
<p>日本学術会議は、下記により開催される学術に関するシンポジウム、講演会、研究会等（以下「会議」という。）について、後援名義の使用を承認することができる。ただし、国際会議については、別に定めるところによる。</p> <p>記</p> <p>1 承認の原則 後援の名義は、会議の趣旨に賛同し、積極的に後援する価値のあるものに使用させることとする。ただし、会議に要する経費は、一切負担しないものとする。</p> <p>2 承認の基準 (1) 主催者 主催者が、次の各号のいずれか一つに該当するものであること。 ア 日本学術会議協力学術研究団体 イ 国の行政機関（独立行政法人等を含む。） ウ 地方公共団体 エ 大学等の高等教育機関 オ 公益法人（宗教法人を除く。） カ 新聞、テレビ、ラジオ等の報道機関 キ その他上記各号に準ずると認められるもの</p> <p>(2) (略)</p>	<p>日本学術会議は、下記により国内において開催される学術に関するシンポジウム、講演会、研究会等（以下「会議」という。）について、後援名義の使用を承認することができる。ただし、国際会議については、別に定めるところによる。</p> <p>記</p> <p>1 承認の原則 後援の名義は、会議の趣旨に賛同し、積極的に後援する価値のあるものに使用させることとする。ただし、会議に要する経費は、一切負担しないものとする。</p> <p>2 承認の基準 (1) 主催者 主催者が、次の各号のいずれか一つに該当するものであること。 ア 日本学術会議協力学術研究団体 イ 国の行政機関（独立行政法人等を含む。） ウ 地方公共団体 エ 大学等の高等教育機関 オ 公益法人（宗教法人を除く。） カ 新聞、テレビ、ラジオ等の報道機関 キ その他上記各号に準ずると認められるもの</p> <p>(2) (略)</p>

附 則

この決定は、決定の日から施行する

14	
幹事会	40

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答することとしたい。

記

指定することを適当と認める

生物科学学会連合

台湾史研究会

日本 VR 医学会

共生社会システム学会

指定することを適当と認めない

フラレン・ナノチューブ学会

1 5	
幹事会	4 0

提 案

平成 1 9 年度代表派遣の変更（ 7 ～ 9 月実施分）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり変更すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第 2 1 条第 2 項及び附則第 3 項の規定に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣実施計画の変更等）

- 第 2 1 条 関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画若しくは派遣者の変更をすべき事情が生じた場合は、その理由を付して速やかに会長に通知しなければならない。
- 2 会長は、前項の規定による通知があった場合は、理由を付して改めて幹事会の承認を得るものとする。ただし、やむを得ない事由により事前に幹事会の承認が得られない場合は、事後に追認を求めるものとする。

附 則

- 3 平成 1 9 年度国際学術交流代表派遣実施計画に係る代表派遣については、なお従前の例による。

別紙

会議名称	派遣期間（会期分）	開催地（国）	派遣者	変更内容	変更理由
国際結晶学連合（IUCr）理事会及び 予備会議	平成19年7月27日～29日	ソルトレークシティ（アメリカ）	大橋 裕二	派遣期間の変更	派遣者の都合のため
	平成19年7月25日～29日				
国際オリエント・アジア（IUOAS） 第38回国際アジア・北アフリカ研究会議	平成19年9月10日～15日	アンカラ（トルコ）	辛島 昇 高崎 直道	派遣者の変更	派遣者の都合のため
国際科学史・科学基礎論連合（IUHPS/DLMPS）第13回国際科学史・ 科学基礎論連合（科学基礎論部会）会議	平成19年8月9日～15日	北京（中国）	飯田 隆	派遣期間の変更	派遣者の都合のため
	平成19年8月10日～11日				
国際歴史学委員会（CISH）国際歴史 学委員会総会	平成19年9月17日～18日	北京（中国）	木畑 洋一	派遣期間の変更	派遣者の都合のため
	平成19年9月16日～18日				

16	
幹事会	40

提 案

平成19年度代表派遣（追加）（平成19年9月分）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣者の選考）

第19条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。

- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	国際問題に関するインターアカデミーパネル(IAP) 執行委員会	9月25日 ～ 9月26日	3 日	キャンベラ オーストラリア	土居 範久 会員 中央大学理工学部教授	ICSU等分科会 第2区分
2	国際問題に関するインターアカデミーパネル(IAP) 執行委員会	9月25日 ～ 9月26日	3 日	キャンベラ オーストラリア	武市 正人 会員 東京大学大学院情報理工学系研究科研究科長、教授	ICSU等分科会 第2区分

17	
幹事会	40

提 案

第2回ウブントゥ RCE 審査委員会及び RCE 国際会議への会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 ウブントゥ連合の目的の1つである持続可能な開発のための教育を推進するための地域の拠点作り (Regional Centre of Expertise: RCE)に関し、世界各地からの認定申請書を審査するため、第2回ウブントゥ RCE 審査委員会へ別紙依頼のとおり会員を派遣することとしたい。



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

UNU-IAS

Institute of Advanced Studies

1-1-1 Minato Mirai
Nishi-ku, Yokohama 220-8502
Japan
Tel : +81-45-221-2300
Fax: +81-45-221-2302
E-mail: unuias@ias.unu.edu
URL: <http://www.ias.unu.edu>

国際連合大学高等研究所

220-8502
横浜市西区みなとみらい1-1-1

23 April 2007

Re: Invitation for International RCE Conference 2007, 7-8 August 2007 in Penang, Malaysia

Dear Sir/Madame,

The United Nations University (UNU) has been implementing the programme on education for sustainable development (EfSD programme) through its Institute of Advanced Studies (UNU-IAS) since 2003 to promote the Decade of Education for Sustainable Development (2005-2014). UNU proposed to develop regional centres of expertise on education for sustainable development (RCEs) as one of the major thrusts of its EfSD programme, and has been promoting establishment of RCEs around the world together with relevant organizations such as UNESCO and UNEP. Seven RCEs around the world were acknowledged as the first group of RCEs at the International Conference on Globalization and ESD in June 2005 in Nagoya, Japan, jointly organized by UNU and UNESCO. The First International Conference on RCEs was held in April 2006 in Yokohama, Japan to exchange information and experiences among RCEs and RCE candidates.

The Ubuntu Committee of Peers for the RCEs was established to provide guidance for RCEs and review new RCE applications. The First Meeting of the Ubuntu Committee was held in December 2006 in Paris. It adopted the criteria for acknowledging new RCEs and recommended UNU to acknowledge 23 new RCEs. As of April 2007, 35 RCEs have been launched.

Following the progress in RCE development, UNU-IAS will organize an International RCE Conference 2007 on 7-8 August 2007 in Penang, Malaysia, jointly with the University of Science Malaysia to exchange information and experiences on their RCE activities, and discuss the ways and means to further strengthen their networking activities through multi-layer networking activities.

I am pleased to invite you and/or other representatives of your organization to participate in the conference. We should ask you to bear your participation costs due to financial constraints. For more detailed information, please see the "International RCE Conference 2007 Draft Outline" and the First General Information, attached to this document. More detailed information will follow shortly.

I should appreciate it very much if you could fill in and send the registration form of the conference by Friday, 9 June 2007.

I look forward to receiving a positive response from you, and with warmest wishes.

Sincerely yours,

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'Zakri' with a stylized flourish at the end.

A.H. Zakri
Director

1 8	
幹事会	4 0

提 案

インターアカデミーパネル（IAP）執行委員会への会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 IAP執行委員会に下記のとおり会員を派遣することとした
い。
- 4 派遣者 土居 範久（副会長、第三部会員）
武市 正人（第三部会員）

19	
幹事会	40

提 案

IAP 2007 International Workshop on Natural Disasters & Emergency Management への会員の派遣について

- 1 提 案 者 国際委員会委員長

- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。

- 3 提案理由 **IAP 2007 International Workshop on Natural Disasters & Emergency Management** に下記のとおり会
員を派遣することとしたい。

- 4 派 遣 者 濱田 政則（第三部会員）

2007' International Workshop on Natural Disasters & Emergency Management

**September 22-24, 2007
Beijing, China**

Welcome

You are invited to participate the 2007' International Workshop on Natural Disaster and Emergency Management. The workshop will provide a platform for the world wide multi-stakeholders in natural disaster and emergency management, including scientists, engineers, enterprises and decision makers.

Topics

The topics of the workshop include, but not limited to the following items regarding the natural disaster and emergency management, especially earthquake, storm (typhoon, storm tides), flood and drought:

- Mechanism of natural disaster
- Methodology of natural disaster and emergency management
- Assessment technologies for risk analysis
- Pre-plan and preparedness for natural disaster management
- Real time monitoring and quick response technology application
- Early warning systems on natural disaster
- Information and communication technology (ICT) applications in natural disaster emergency management
- Emergency decision-making systems
- Cases studies and lessons learn

Posters and Exhibitions

Posters and exhibitions of publications, equipments, instruments and e-demonstrations will be arranged in separated rooms.

Organizers

- The International Emergency Management Society (TIEMS)
- China Association for Disaster Prevention (CADP)
- International Cooperation Bureau, Chinese Academy of Sciences (CAS)
- Disaster Mitigation Working Group, InterAcademy Panel (IAP)
- Global Alliance for Enhancing Access to & Application of Scientific Data in Developing Countries (UN GAID e-SDDC)

Local Organizers

- National Earthquake Response Support Service (NERSS), China Earthquake Administration (CEA)
- Institute of Geographical Sciences and Natural Resources Research (IGSNRR), Chinese Academy of Sciences (CAS)

20	
幹事会	40

シンポジウム「平成19年度女子高校生夏の学校
～科学・技術者のたまごたちへ～」の開催

1. 提案者 科学と社会委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 科学と社会委員会科学力増進分科会、文部科学省、
男女共同参画学協会連絡会、独立行政法人国立女性教育会館、
- 2 後 援 地球電磁気・地球惑星圏学会、日本宇宙生物科学会、電子情報通信学会、
日本金属学会、土木学会、日本女性科学者の会、日本化学会、日本女性技術者
フォーラム、日本原子力学会、日本生化学会、日本神経科学学会、日本生物物理
学会、日本数学会、日本鉄鋼協会、日本発生生物学会、日本天文学会、日本雪氷
学会、日本糖質学会、日本物理学会、日本バイオイメージング学会、日本分子生
物学会、放射線計測協会、化学工学会、首都大学東京大学院理工学研究科生命科
学専攻、自動車技術会、大学共同利用機関高エネルギー加速器研究機構、地盤工
学会、日本電気株式会社、日本液晶学会
- 3 日 時 平成19年8月16日(木)～8月18日(土)
- 4 会 場 独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)
(埼玉県比企郡嵐山町菅谷728)

5 次 第
開催趣旨

科学者・技術者との対話、交流を通して女子高校生が科学技術分野に自分の新しい可能性を見出すことをねらいとして、「女子高校生夏の学校」を開校します。

具体的には、若い世代が科学への夢をはぐくむことができるよう、先端研究、身近な開発等に携わる科学者、技術者、大学生等による講演・活動内容展示、女性科学者・技術者のイメージやロールモデルの紹介、女子高校生の多様な進路選択・人生選択に役立てるための科学者や大学生と意見交換・交流を通じた自発的なネットワークづくりの支援、科学・技術分野への興味・関心を高めるための実験等の体験学習などを行います。

プログラム

【第1日目 8 / 16 (木)】

- | | |
|--|---------------|
| (1) 開校式 | 14:00 ~ 14:30 |
| 挨拶、オリエンテーション | |
| (2) 講演 「科学・技術の世界の楽しさ ・ 」
「女子大学生からのメッセージ ・ 」 | 14:30 ~ 17:15 |
| (3) ディスカッション | 17:30 ~ 18:30 |
| (4) タ 食 | 18:30 ~ 20:00 |
| (5) アトラクション「仲間同士で推理ゲーム」 | 20:00 ~ 21:00 |

【第2日目 8 / 17 (金)】

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| (6) 実験・実習のガイダンス | 9:00 ~ 10:00 |
| (7) 実験・実習 | 10:00 ~ 12:00 |
| (8) 昼食会 | 12:00 ~ 13:00 |
| (9) 実験・実習 、ポスターセッション・キャリア相談 | 13:00 ~ 17:00 |
| (10) NWE Cからのメッセージ | 17:15 ~ 18:00 |
| (11) 懇親会 | 18:30 ~ 20:00 |
| (12) 自由交流 | 20:00 ~ 21:00 |

【第3日目 8 / 18 (土)】

- | | |
|-----------------------|---------------|
| (13) 交流「サイエンス・カフェ」 | 9:00 ~ 10:00 |
| (14) 学生企画「クイズでサイエンス」 | 10:15 ~ 11:30 |
| (15) 学習のまとめ(反省会・感想発表) | 11:30 ~ 12:00 |
| (16) 閉校式 | 12:00 ~ 12:30 |

2 1	
幹事会	4 0

シンポジウム「ユ - ラシア東部とその隣接地域における陸域環境変動
(Terrestrial Environmental Changes in East Eurasia and Adjacent Areas)」開催

- 1 . 提案者 地球惑星科学委員会委員長
- 2 . 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 . 主 催 日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会
 Kanazawa University, Japan
 Nagoya University, Japan
 Siberian Branch of Russian Academy of Sciences (SB RAS), Russia
 Irkutsk Science Center, SB RAS, Russia
 Institute of Geochemistry, SB RAS, Russia
 AASA
 Institute of Earth Environment (IEE), Chinese Academy of Sciences (CAS), China
 Institute of Geology and Mineral Resources (IGMR), Mongolian Academy of Sciences (MAS), Mongolia
 Korean Institute of Geology and Mineral Resources (KIGAM), Korea
- 2 . 後 援 Siberian Branch of Russian Academy of Sciences, Russia
 Russian Foundation for Basic Research (RFBR), Russia
 International Science & Technology Center (ISTC), Russia
- 3 . 日 時 平成 1 9 年 8 月 2 4 日 (金) ~ 8 月 2 8 日 (火)
- 4 . 場 所 プリバイカルスカヤ・ホテル ロシア共和国リストヴィヤンカ
 (Pribaikalskaya Hotel, Listvyanka settlement, Irkutsk Russia)
- 5 . 次 第

開催趣旨：

環境問題の解決には、生態系及び種の多様性の保全と人類の持続可能なあり方の調和が前提である。特に、既に世界人口の 6 割を擁し、今後も急速な人口増が予想されているアジアでは、信頼性の高い時系列情報の拡大・整備、予知・予測に関する精度・解像度の向上そして情報と環境管理戦略の共有化による国際協力の土台の強化が不可欠である。これには信頼性・解像度の高い時系列情報の存在が大前提となるが、ユ - ラシア東部の中緯度地域にはバイカル湖湖沼堆積物と黄土高原黄土堆積物という最古の高解像度陸域試料が存在している。中緯度の湖沼堆積物には解像度の高い陸域の多様な生命環境の情報が残されるという点で、深海底堆積物や氷床堆積物情報を、遥かに上回る利点がある。1971 年、日本は琵琶湖湖沼堆積物試料を用いた長期

環境情報の解析において世界に先鞭をつけたが、バイカル湖においても、日本の研究者はロシア・アメリカの研究者と共に長期環境変動に関する試料収集や解析を勢力的に進めている。さらに、最近バイカル湖流域のモンゴル・フブスグル湖においてモンゴル・韓国も参加し共同の試料収集・研究体制が確立してきた。一方、黄土堆積物試料は主として中国の研究者によって過去2000 万年ほどの環境情報が収集・解析が進められてきた。本シンポジウムは、バイカル湖を中心に黄土高原、モンゴル・フブスグル湖、チベット高原北縁部・青海湖等を含めたユーラシア東部の陸域時系列環境情報の統合化・共有化を進展させること、そしてそれを通じてアジアの環境研究者のネットワーク形成に資することを基本的な目的とする。

プログラム：

- August 24, 2007

Arrival at Irkutsk. Accommodation. Registration.

- August 25, 2007

Discussion of future potential drilling operation on different lakes (Baikal, Hovsgol, Quingai etc.).

Sightseeing. Reception

- August 26, 2007

Opening ceremony, and Thematic Sessions (talks and posters).

- August 27, 2007

Thematic Sessions (talks and posters). General Discussion, Closing Ceremony. Banquet.

- August 28, 2007

Full-day field excursion. Departure.

2 2	
幹事会	4 0

日中韓ワ - クシ ョ ッ プ 「 東 ア ジ ア に お け る 現 代 の 湖 沼 流 域 系 プ ロ セ ス と 人 間 活 動
(Modern Lake-Catchment Processes and Human Activity in East Asia) 」 の 開 催

- 1 . 提 案 者 地 球 惑 星 科 学 委 員 会 委 員 長
- 2 . 議 案 標 記 シ ン ポ ジ ウ ム を 下 記 の と お り 開 催 す る こ と 。

記

- 1 . 主 催 日 本 学 術 会 議 地 球 惑 星 科 学 委 員 会 国 際 対 応 分 科 会
Nanjing Institute of Geography and Limnology, Chinese Academy of Sciences (NIGLAS)
Key Laboratory of Lake Sedimentation and Environment, NIGLAS
Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University
Kanazawa University COE Program
Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources (KIGAM)
- 2 . 後 援 Chinese Academy of Sciences (CAS)
Natural Science Fundation of China (NSFC)
Nanjing Institute of Geography and Limnology, Chinese Academy of Sciences(NIGLAS)
Japanese Geomorphological Union, Japan
Kanazawa University, Japan
The Korean Quaternary Association, Korea
- 3 . 日 時 平 成 1 9 年 9 月 1 7 日 (月) ~ 2 1 日 (金)
- 4 . 場 所 中 国 科 学 院 南 京 地 理 湖 沼 研 究 所 (中 国 ・ 南 京 市)
- 5 . 次 第
開 催 趣 旨 :

近年の東アジア地域でも経済の拡大を契機に地域で共有すべき環境問題への関心は高まっており、環境変動に対する予知・予測、そして対策が検討されているが、その多くは現在(時間的・空間的)の環境システムにおける観測・観察事実(資料)に依存しているという限界がある。システムの変更が予想される環境変動(温暖化を含む)の推定やその対応策には、現在や観測時代の資料だけではなく、それ以前の環境記録の詳細な検討が不可欠であり、現在の環境プロセスと解像度の高い過去の環境変動を結合し、環境管理計画の中に取り入れる必要がある。即ち、「現在」のモニタリングを通して(プロセスの解明)、「過去」のモニタリング結果(時系列情報)をその時点の枠組み(環境システム)とプロセスから再構築し、今後(「未来」)の環境変動推定に結実させなければならない。

現行の環境レジ - ム(間氷期)には中世温暖期・小氷期のようなシステムが含まれているが、東アジアではこの時期の記録は顕著な人為的な影響が推定される産業革命期や高度成長期を含む観測時代に繋がる。この時間軸に沿った近過去・近未来の環境変動推定には、現在の観測・観察記録と過去の記録(代替資料等)の接続や空間的に異なる環境システムを定量的に比較するための共通のトレ - サ - と測器(モニタリング装置)が不可欠である。

本ワークショップの主な目的は、湖沼 流域系というシステム(湖沼堆積物や流域環境試料から得られる環境情報)をもとに、東アジアにおける現代と歴史上の環境情報を交換することである。

プログラム：

- ・ 17 September

Registration

- ・ 18 September

Opening ceremony and invited oral presentations (morning),

Session oral presentations, posters (afternoon)

- ・ 19 September

Session oral presentations, posters, further discussion

- ・ 20 September

Excursion

- ・ 21 September

Departure.

2 3	
幹事会	40

提 案

公開シンポジウム「学術・軍縮・人道」の開催

- 1 提案者 政治学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議政治学委員会
- 2 日 時 平成 19 年 9 月 22 日（土） 14：00～17：00
- 3 会 場 日本プレス・センター
- 4 プログラム

司 会 小林 良彰（慶應義塾大学・日本学術会議会員）

挨 拶 猪口 孝 （中央大学・日本学術会議会員）

基 調 演 説 猪口 邦子（衆議院議員・日本学術会議会員）

専 門 家 発 表 糸崎 秀夫（大阪大学）「地雷探知技術」
金 吉晴（国立精神神経センター精神保健研究所）
「トラウマ精神医学」

シンポジウム 藤田 久一（関西大学法科大学院）「軍縮と国際人道法」
加藤 節 （成蹊大学・日本学術会議会員）「政治哲学の視点」
廣瀬 和子（上智大学・日本学術会議会員）「国際法社会学の視点」
五百旗頭真（防衛大学・日本学術会議会員）「外交史の視点」
猪口 孝 （中央大学・日本学術会議会員）「国際関係の視点」

2 4	
幹事会	4 0

提 案

公開シンポジウム 「微生物を知る」の開催

- 1 提案者 基礎生物学委員会委員長、応用生物学委員会委員長、農学基礎委員会委員長、生産農学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長
- 2 議 案 標記公開シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1 . 主 催 日本学術会議 基礎生物学委員会・農学基礎委員会・生産農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 I U M S 分科会
日本学術会議 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学基礎委員会合同総合微生物科学分科会
- 2 . 後 援 日本微生物学連盟
- 3 . 日 時 平成19年9月25日(火) 13:00～17:30
- 4 . 場 所 日本学術会議講堂
- 5 . 次 第

開催趣旨

人類は微生物を友として生きている。良い友もいれば悪い友もいるが、知れば知るほどより良い友となる。また膨大な種類の微生物の内、我々人類が認知しているのはほんの一部に過ぎない。したがって、微生物研究には大きな夢がある。その夢に向かって日本微生物学連盟が設立された。これを契機とし、当分科会と連携を図り、広く微生物への理解を深めるため、本シンポジウムを開催することとした。

開会挨拶：野本明男（東京大学大学院医学系研究科教授、日本学術会議会員、
日本学術会議 I U M S 分科会・総合微生物科学分科会委員長）

司 会：春日文子（国立医薬品食品衛生研究所室長、日本学術会議会員、
日本学術会議 I U M S 分科会・総合微生物科学分科会副委員長）

講 演（13:10～17:00）

- 1)河岡義裕（東京大学医科学研究所教授、日本学術会議連携会員）

「パンデミック・インフルエンザ - 過去と未来 - 」

- 2 荒川宣親（国立感染症研究所部長）

「薬剤耐性遺伝子の水平伝播と新型耐性菌の出現」

- 3)堀井俊宏（大阪大学微生物病研究所教授、日本学術会議連携会員）

日本学術会議総合微生物科学分科会委員)

「SE36 マラリアワクチンの開発」

4)高松 進(三重大学大学院生物資源学研究科教授)

「植物寄生菌類の系統と進化」

5)渡邊 信(筑波大学大学院生命環境科学研究科教授)

「炭化水素産生微生物による地球温暖化対策技術」

6)富田房男(放送大学教授、北海道大学名誉教授、日本学術会議連携会員)

日本学術会議 IUMS 分科会・総合微生物科学分科会委員)

「微生物バイオテクノロジーの将来像」

7)辨野義己(理化学研究所バイオリソースセンター微生物材料開発室室長)

「微生物資源をめぐる微生物保存機関の役割」

総合討論とまとめ(17:00 ~ 17:30)

篠田純男(岡山理科大学教授、日本学術会議連携会員、

日本学術会議 IUMS 分科会・総合微生物科学分科会委員)

閉会挨拶:野本明男(東京大学大学院医学系研究科教授、日本学術会議会員、

日本学術会議 IUMS 分科会・総合微生物科学分科会委員長)

参加申込方法

E-mailもしくはFaxにて必要事項(氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス)をご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛、お申し込みください。

東京大学大学院医学系研究科微生物学講座(担当:鈴木悦子)

E-mail: e-suzuki@m.u-tokyo.ac.jp Fax: 03-5841-3374

*定員(300名)となり次第、締め切りとさせていただきます。

2 5	
幹事会	4 0

提 案

日本学術会議東北地区会議 公開学術講演会の開催

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議東北地区会議
- 2 日 時 平成19年9月27日(木) 13:00～17:00(予定)
- 3 会 場 福島大学(福島県福島市)
- 4 講演会のテーマ
「ひと、社会、自然。みちのく、日本」
今こそ、地域を支える大学の役割を考える
- 5 次 第
 - (1) 開会挨拶
野家 啓一 (日本学術会議東北地区会議代表幹事)
今野 順夫 (福島大学長)
 - (2) 講演
「科学・学術が人材育成にどのように寄与するか」(仮題)
未 定(日本学術会議会員)
「人口減少社会の地域経済」
山川 充夫(福島大学理事・副学長、日本学術会議連携会員)
「未 定」
虫明 功臣(福島大学共生システム理工学類教授、日本学術会議連携
会員)

26	
幹事会	40

提 案

公開シンポジウム「政治学は人間や社会にどう関わるのか」の開催

- 1 提案者 政治学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議政治学委員会民主主義と信頼分科会、政治理論分科会、政治思想分科会、比較政治分科会、政治史分科会、行政学・地方自治分科会、国際政治分科会、政治過程分科会、日本政治学会
- 2 日 時 平成 19 年 10 月 6 日（土） 10：00～12：00
- 3 会 場 明治学院大学白金キャンパス
- 4 プログラム
 - A．国際政治をどう語るか、どう考えるか
 - 司 会：猪口 孝 （中央大学・日本学術会議会員）
 - 報告者：山本 吉宣 （青山学院大学・日本学術会議連携会員）「国際政治理論をどう教えるか」
 - 油井 大三郎（東京女子大学・日本学術会議会員）「国際政治と文化研究」
 - 柄谷 利恵子（九州大学）「地域研究の視点」
 - 鈴木 基史 （京都大学・日本学術会議連携会員）「国際関係と戦略的思想」
 - 討論者：山本 武彦 （早稲田大学）
 - 土佐 弘之 （神戸大学）
 - 清水 耕介 （龍谷大学）
 - 飯田 敬輔 （東京大学）
 - 羽場 久美子（法政大学・日本学術会議連携会員）
 - B．貴族院と参議院
 - 司 会：御厨 貴 （東京大学・日本学術会議連携会員）
 - 報告者：今津 敏晃 （関東短期大学）「継続性と断続性」
 - 小林 和幸 （青山学院大学）「相似性と相異性」
 - 討論者：竹中 治堅 （政策研究大学院大学）

C．道州制と連邦制

司 会：縣 公一郎 （早稲田大学・日本学術会議連携会員）
報告者：佐々木信夫 （中央大学・日本学術会議連携会員）「道州制の課題」
土居 丈朗 （慶應義塾大学・日本学術会議連携会員）「道州制の財政学的検討」
実務者・実務経験者（交渉中）
討論者：土岐 寛 （大東文化大学・日本学術会議連携会員）

D．民主主義政治と市民参加 - シティズンシップとエンパワーメント -

司 会：川人 貞史 （東北大学・日本学術会議連携会員）
報告者：神江 伸介 （香川大学・日本学術会議連携会員）「日本の政治教育」
近藤 孝弘 （名古屋大学）「ドイツの政治教育」
討論者：森脇 俊雅 （関西学院大学・日本学術会議連携会員）
新川 敏光 （京都大学・日本学術会議連携会員）

E．構成主義的政治理論の可能性

司 会：小野 耕二 （名古屋大学・日本学術会議連携会員）
報告者：近藤 康史 （筑波大学）「アイディア的制度論の現状」
加藤 雅俊 （名古屋大学）「アイディア的制度論から見たオセアニア福祉国家」
鈴木 一人 （筑波大学）「国際政治学における構成主義」
討論者：杉田 敦 （法政大学・日本学術会議連携会員）
田村 哲樹 （名古屋大学）

F．世論調査データで読むアジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化と民主主義

司 会：眞柄 秀子 （早稲田大学・日本学術会議連携会員）
報告者：大西 裕 （神戸大学）「東アジア」
遠藤 貢 （東京大学）「アフリカ」
恒川 恵市 （東京大学・日本学術会議連携会員）「ラテンアメリカ」
討論者：恒川 恵市 （東京大学・日本学術会議連携会員）

G．政治思想における古典の力

司 会：千葉 眞 （国際基督教大学）
報告者：加藤 節 （成蹊大学・日本学術会議会員）「J・ロック『統治二論』を読む」
松本 礼二 （早稲田大学・日本学術会議連携会員）「A・トックビル『アメリカのデモクラシー』を読む」
討論者：辻 康夫 （北海道大学）
斉藤 純一 （早稲田大学）

27	
幹事会	40

提 案

公開シンポジウム

「研究・教育者等のキャリアパスの育成と課題」の開催

- 1 提案者 基礎生物学委員会委員長、応用生物学委員会委員長
- 2 議 案 標記公開シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1．主 催 日本学術会議 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同生物科学分科会
- 2．後 援 生物科学学会連合
- 3．日 時 平成 19 年 10 月 18 日（木）13:00～18:00
- 4．場 所 日本学術会議講堂
- 5．次 第

開催趣旨

大学院重点化とポスドク 1 万人計画の施策によって、わが国のサイエンスを担うべき高学歴の若者の数は大幅に増加した。しかし、その出口が増えないために、ポスドクを何度も繰り返して定職に就けない研究者が蓄積し始め、それを見ている大学院生や学部学生が、サイエンスの道へ進むことをためらい始めている。その傾向は、とくに生物科学の分野に顕著である。アカデミアのみならず、産業界、教育界等に博士取得者を生かすキャリアパスを育成することが急務であり、そのような提言が各方面からなされつつあるが、現状は依然として楽観できる状況にない。本シンポジウムでは、この厚みを増した博士取得者層とサイエンスを目指す学生に明るい展望を拓くために、産官学の各界の知恵を結集し、どのような取り組みが有効となるかを考えたい。

講演予定者

浅島 誠（東京大学副学長，日本学術会議副会長，生物科学学会連合代表）
 中野明彦（東京大学大学院理学系研究科教授，日本学術会議生物科学分科会委員長）
 宮島 篤（東京大学分子細胞生物学研究所教授，日本学術会議生物科学分科会副委員長）
 有馬朗人（東京大学名誉教授，元文部大臣，日本科学技術振興財団会長）
 山脇良雄（文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長）
 その他 3～4 名

28	
幹事会	40

提 案

シンポジウム「今後の政府統計のあり方とその有効活用」の開催

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同
パブリックヘルス科学分科会
共 催 日本公衆衛生学会
2. 日 時 平成19年10月24日（水）18：00-20：00
3. 場 所 愛媛県民文化会館（愛媛県松山市）
4. 開催趣旨

パブリックヘルス科学分科会は、衛生・公衆衛生学領域における学術研究の一層の促進を図るための重要な課題の一つとして、「疫学・統計データの有効な活用と個人情報の保護」を取り上げることとし、シンポジウム等を開催して幅広い関連領域の専門家等との討論を積み重ねた上で、日本学術会議として第20期の終了時（平成20年9月）を目途に報告書を取りまとめることとした。

この趣旨に沿って、第1回目のシンポジウム「衛生・公衆衛生学における学術研究と個人情報保護－疫学研究・統計調査の円滑な推進とデータの有効活用のために－」を平成19年3月28日に開催し、個人情報保護と疫学研究の推進、政府統計資料の有効活用についてどのような視点と方策を採るべきか、分野横断的に討議した。この中で、政府統計資料については、一次データ（マイクロデータ）を多くの研究者が多角的に活用できるようにすべきだとの指摘や、各種の政府統計資料を相互に個人ごとにリンケージできるようにすべきだ等の提案がなされた。

一方、2007年5月23日に新統計法が公布され、2009年4月1日の完全実施に向けて、政令や省令の整備、政府統計に関する利用の手順等について定めていくこととなっている。

また、新統計法には、おおむね5年ごとに公的統計の整備に関する基本計画を変更することなどが盛り込まれている。

こうした状況を踏まえ、パブリックヘルス科学分科会は、今後の政府統計は如何にあるべきか、またその有効な活用をどのようにすべきかについて、公衆衛生学的な立場から議論を深め、論点を整理することが、重要かつ緊急の課題であると考え、本シンポジウムを企画した。

5. プログラム

開会挨拶 岸 玲子（北海道大学大学院医学研科社会医学専攻予防医学講座教授 日本学術会議会員、日本学術会議基礎医学委員会・健康生活・科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会委員長）

座 長 小林章雄（愛知医科大学医学部衛生学講座教授、日本学術会議連携会員）
小林廉毅（東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野教授、
日本学術会議連携会員）

報 告 者

福田吉治（国立保健医療科学院疫学部疫学情報室長）
祖父江友孝（国立がんセンター研究所がん情報研究部長）
橋本英樹（東京大学大学院医学系研究科臨床疫学・経済学教授）
笠島 茂（国立保健医療科学院公衆衛生政策部行政政策室長）

閉会挨拶 實成文彦（香川大学医学部人間社会環境医学講座教授、
日本学術会議連携会員、パブリックヘルス科学分科会副委員長）

6. 分科会の開催

同日、同場所（愛媛県松山市）において、パブリックヘルス科学分科会を開催予定

29	
幹事会	40

提 案

公開シンポジウム「子どもの環境保健 - 環境リスクから子どもを守る - 」
の開催

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議健康・生活科学委員会・環境学委員会合同
環境リスク分科会
2. 共 催 日本公衆衛生学会
3. 日 時 平成19年10月26日(金) 10:30～12:30
2. 場 所 愛媛県民文化会館 (松山市道後町2丁目5番1号)
3. 次 第

開催趣旨

現代社会に住む我々は、多くの環境リスクに曝されている。特に石油化学の発展以後多くの化学物質にとり囲まれ、カネミ油症事件、ダイオキシン類、いわゆる環境ホルモンといった問題が次々と起こり、健康リスクに対する国民の不安が高まっている。これらの問題は、大人だけではなく、次世代に対する影響、脳や免疫機能などの発達段階にある子供にとっては大いなる脅威となっている。1994年の子供の環境保健に関する、いわゆるマイアミ宣言以来、しばしば子供の環境保健の問題はサミットの議題としても取り上げられ、わが国でもようやく、環境省を中心として本格的な調査・研究が開始されようとしている。これまでわが国では、子供特有の個々の疾患や事象についての研究は多くあるが、「子供の環境保健」を意識した調査研究が行われていたとは言いがたい。そこで本シンポジウムでは、主に公衆衛生の専門家、行政、市民を対象として、子供に特有の脆弱性を理解するとともに、子供の置かれている化学物質を中心とした環境リスクの現状と、今後長期にわたるコホート研究の重要性などを議

論することを目的としている。

これらのシンポジウムを通して得られた情報や資料を基にして，日本学術会議の対外報告に資する。

10:30～10:35 開会挨拶

實成 文彦（香川大学医学部人間社会環境医学講座
衛生・公衆衛生学教室 教授，日本学術会議連携会員）

講演

座長：内山 巖雄（京都大学大学院教授，日本学術会議連携会員，
日本学術会議健康・生活科学委員会・環境学
委員会合同 環境リスク分科会委員長）
未 定（日本公衆衛生学会）

10:35～11:05

(1) 「子供のバースコHORT研究について（仮題）」

岸 玲子（北海道大学大学院医学研究科予防医学講座公衆衛生学分
野教授，日本学術会議会員，日本学術会議健康・生活
科学委員会パブリックヘルス科学分科会委員長）

11:05～11:35

(2) 「子供の重金属汚染の現状について（仮題）」

村田 勝敬（秋田大学医学科社会環境医学講座教授，日本学術会議
連携会員）

11:35～12:05

(3) 「子供の環境保健に関する環境省の取り組みについて」

北窓 隆子（環境省環境保健部リスク評価室長）

12:05～12:25 質疑・応答

12:25～12:30 閉会挨拶

未 定（日本学術会議連携会員）

3 0	
幹事会	40

提 案

公開シンポジウム

「21 世紀電子社会の法的課題 - 情報流通と情報保護」の開催

- 1 提案者 法学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議法学委員会「IT 社会と法」分科会
- 2 日 時 平成 19 年 10 月 31 日（水） 午後～（時間未定）
- 3 会 場 日本学術会議講堂

4 プログラム

司 会：池田 眞朗（慶應義塾大学・日本学術会議会員）

基調報告：堀部 政男（一橋大学・日本学術会議連携会員）

個別報告：第 部 省庁の取り組みと問題提起

「電子商取引の仲介業者の果すべき役割」

（経済産業省商務情報政策局情報経済課）【交渉中】

「電子記録債権法における情報流通と情報保護の諸手当」

（法務省民事局参事官）【交渉中】

個別報告：第 部 研究最前線

民事系【未定】

刑事系 園田 寿（甲南大学・日本学術会議連携会員）

行政系【未定】

ディスカッション：第 部

参加者【報告者やその他未定】

3 1	
幹事会	4 0

提 案

公開シンポジウム「農業農村における新たな資源・環境保全戦略と地域農業」 - 滋賀県における取り組みとその展開 - の開催

- 1 提案者 農学基礎委員会委員長
- 2 議 案 標記公開シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1 . 主 催 日本学術会議 農学基礎委員会地域総合農学分科会
日本学術会議 農学基礎委員会水問題分科会
滋賀県立大学
- 2 . 後 援 未定
- 3 . 日 時 平成19年11月30日(木) 13:00～17:00
- 4 . 場 所 滋賀県立大学(滋賀県彦根市八坂町 2500)
- 5 . 分科会の開催 地域総合農学分科会を同会場にて開催
- 6 . 次 第

開催趣旨

本年2007年は、食料・農業・農村白書では「戦後最大の農政改革元年」と位置づけられている。農業政策が大きな転換期を迎えている中で、「21世紀新農政2007」が本年4月に閣議決定され、省庁を越え政府が一体となって新たな農業政策に取り組むこととなった。その中で、国内農業の体質強化や「美しい国」の原点である農山漁村地域を守り、地域の活性化や振興を図る施策の推進が取り上げられている。また、農林水産省では、基本計画に対応して平成17年にまとめられた経営所得安定対策大綱、品目横断的経営安定化対策、米政策改革推進対策、農地・水・環境保全対策が、本年度から具体的な施策として実施されることとなった。

これらの施策はこれからの地域農業にきわめて大きな影響を与えることが考えられる。とくに の対策では、これまでの農業政策ではもっぱら農業生産者を中心に展開されてきたのとは異なって、地域が一体的に、また総合的に取り組むという新たな政策的手法が導入されている。地域総合農学分科会では、この の対策を中心に、これらの政策が地域農業に与える影響をモニタリングして評価し、提言の形でまとめることが喫緊の課題であると考えた。

本年は施策転換が具体的に始まった元年に当たるために、まず、この施策のモデルとなったといわれている滋賀県の農業農村施策の展開をとりあげてシンポジウムを開催し、新たな施策について全体的な観点から議論を行うこととした。なお、地域によってこれら施策の影響は大きく異なると考えられることから、今後はいくつかの地域でこの種のシンポジウムを開催して検討を進め、それらの結果を踏まえて最終的な提言をまとめる予定である。

開会挨拶：三野 徹（京都大学・岡山大学名誉教授、日本学術会議連携会員、
日本学術会議地域総合農学分科会委員長）
司 会：渡邊 紹裕（人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授、
日本学術会議連携会員、日本学術会議地域総合農学分科会委員）

講 演（13：00～15：30）

- 1） 莊林 幹太郎（学習院女子大学国際文化交流学部教授）
「環境先進国に学ぶ日本の農業環境政策」
- 2） 仲谷 修一（農林水産省農村振興局）
「農地・水・環境保全向上対策のモデル事業と制度の設計」
- 3） 松村 真三（滋賀県農政水産部）
「滋賀県における取り組み事例」
環境こだわり農業の取り組みとその評価(環境保全農業の視点から)
みずすまし運動とその展開(農村地域資源保全の視点から)
- 4） 合瀬 宏毅（NHK解説委員）
「日本型の資源・環境保全施策への期待と課題」

パネルディスカッション（15：45～17：00）

「日本型農業環境政策の展開と環境支払い」

コーディネーター 水谷 正一（宇都宮大学農学部教授、日本学術会議連携会員、
日本学術会議地域総合農学分科会委員）

閉会挨拶：宮崎 毅（東京大学大学院教授、日本学術会議連携会員、
日本学術会議水問題分科会委員長）

3 2	
幹事会	4 0

提 案

国内会議の後援

1 提 案 者 会 長

2 議 案 後援の依頼について回答すること。

3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
第 9 回日本感性工学会大会の後援について 主催：日本感性工学会 会期：平成 19 年 8 月 1 日（水）～3 日（金） 場所：工学院大学新宿キャンパス	日 本 感 性 工 学 会 会 長	第三部
平成 19 年度工学教育連合講演会の後援について 主催：日本工学教育協会 会期：平成 19 年 9 月 8 日（土） 場所：工学院大学新宿キャンパスアーバンテックホール	社 団 法 人 日 本 工 学 教 育 協 会 会 長	第三部
河川環境復元に関する日本工学会と世界工学団体連盟の合同国際シンポジウムの後援について 主催：日本工学会、世界工学団体連盟 会期：平成 19 年 9 月 13 日（木） 場所：広島大学東広島キャンパス学士館 2 階レセプションホール	社 団 法 人 日 本 工 学 会 会 長	第三部

「次世代スーパーコンピューティング・シンポジウム 2007」の後援について 主催：理化学研究所 会期：平成 19 年 10 月 3 日（水）～ 4 日（木） 場所：丸の内 MY PLAZA ホール及び MY PLAZA 会議室	独立行政法人 理化学研究所 理事長	第三部
金沢大学重点研究国際シンポジウム「東アジア共生の歴史的基礎」の後援について 主催：金沢大学重点研究プロジェクト 会期：平成 19 年 10 月 13 日（土） 場所：石川県立生涯学習センター	金沢大学経済 学部教授	第一部
第 61 回日本臨床眼科学会 市民公開講座の後援について 主催：日本眼科学会、大阪大学大学院医学系研究科眼科教室、大阪府眼科医会 会期：平成 19 年 10 月 14 日（日） 場所：「エルおおさか（大阪府立労働センター）内「エルシアター」	第 61 回日本臨 床眼科学会会 長	第二部
シンポジウム「生殖科学のパラダイムシフト」の後援について 主催：日本繁殖生物学会 会期：平成 19 年 10 月 22 日（月） 場所：東京大学弥生講堂	日本繁殖生物 学会理事長	第二部 第三部
「第 18 回日本臨床スポーツ医学会学術集会」の後援について 主催：日本臨床スポーツ医学会 会期：平成 19 年 11 月 3 日（土）～ 4 日（日） 場所：別府ビーコンプラザ	第 18 回日本 臨床スポーツ 医学会学術集 会	第二部
メタロミクス国際シンポジウム 2007(ISM2007)の後援について 主催：社団法人日本化学会 会期：平成 19 年 11 月 28 日（水）～ 12 月 1 日（土） 場所：名古屋国際会議場	社団法人日本 化学会会長	第三部
平成 19 年度衝撃波シンポジウムの後援について 主催：衝撃波研究会、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部、東北大学流体科学研究所 会期：平成 20 年 3 月 17 日（月）～ 3 月 19 日（水） 場所：東京工業大学・大岡山キャンパス西 9 号館	衝撃波研究会 会長 平成 19 年度衝 撃波シンポジ ウム実行委員 会委員長	第三部